

四三嶋獅子廻し【しそじまししまわし】



開催場所
開催日

四三嶋天満宮
6月29日
6月最終日曜日

【芸能の概要】

四三嶋獅子廻しは、今から約130年前の1860(万延元)年の頃より始まったと伝えられている。これは、「お獅子入れ」ともいい、悪疫退散を祈願して行われる。まず、お宮に参拝し、神前でお祓いを受け身を清める。その後、上組と下組の2つに分かれ、区の全家庭を回る。四三嶋区民全員が参加する一大行事である。

【芸能の特徴】

1872(明治5)年製作の獅子頭を平成6年まで使用していたが、平成7年に新しく作り直し、現在使用している。太平洋戦争中に中断したが、その年に限って伝染病が蔓延したため、行事を中止したのが原因と考えられ、翌年から再開し、以後取り止めたことはない。その後、少子化・過疎化により若い人が不足したが、年輩の人達で重い獅子頭を持って個別回りをしてきた。昭和に入り、この行事を確固たるものにしたいという声もり上がり、地区の全所帯で「四三嶋獅子廻し実行委員会(保存会)」を結成して法被等を揃えた。

掛け声に合わせて、獅子が歯をかちかち鳴らす所作を「打ち込み」というが、神殿前の奉納でも、舞う前と後にこの「打ち込み」を行う。各家庭(134戸)を回るときも「打ち込み」を行い、途中で「勢い水」がかけられる。

【使用する祭具・道具など】

各戸には、サカキに付けた御幣を配り、魔除けとする。また、御幣を付けた長竿を区の境界に立て、区外からの魔・疫病の進入を防ぐ。囃子の道具は一切ない。

・アクセス

西鉄大牟田線津古駅より車で10分
西鉄バス篠隈バス停下車徒歩10分

・周辺の観光

焼ノ峠古墳
四三嶋虚空蔵菩薩
虚空蔵菩薩祭(1月13日、9月13日)
夜須かがし祭(11月2・3日)
夜須高原祭(8月第1日曜)

・近くの特産品

梨、米、自然薯、木酢

